



よろんちょう 議会だより

第160号

2026年／令和8年8月13日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



奄中総体で男女アベック優勝の与論中学校卓球部

補正予算は5億7376万円

(P2)

6月
定例会

所管事務調査報告

(P3~P5)

奄美群島市町村議会議員大会

(P6)

一般質問

5人が登壇！町政を問う

(P7~P11)

一般会計予算は 62億4534万円 (5億7376万円を追加)

主な補正

ヨロン島サンゴ礁基金費	1億0192万円
清掃センター解体撤去事業基金費	1億0000万円
町営住宅等整備基金費	4000万円
こども園新園舎建設基金費	5000万円
学校給食センター整備事業費	4926万円

令和八年第二回定例会を六月十五日から十九日までの五日間の日程で開いた。

六月十五日は諸般の報告の後一般質問があり、5名の議員が、町政全般について活発な議論を交わした。その後議案審議があり、条例3件、補正予算4件を原案の通り可決した。その後、その他2件を可決し、専決処分3件を承認した。最後に農業委員会委員9名の任命に同意した。

六月十九日の最終本会議では、補正予算2件を原案通り可決し、契約3件も可決した。

その後、総務厚生文教常任委員長の所管事務調査報告、環境経済建設常任委員長の委員会調査報告を行った。最後に議員派遣と閉会中の継続審査・調査を決定し会議を閉じた。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	56億7158万円	5億7376万円	62億4534万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	7億6557万円	589万円	7億7146万円
介護保険特別会計	7億4277万円	79万円	7億4356万円
後期高齢者医療特別会計	1億0247万円	7万円	1億0254万円

一般会計補正予算・特別会計補正予算については、切り捨て処理のため合計額は必ずしも一致しない。

所管事務調査報告

総務厚生文教委員会

調査の目的

こども園統合を見据え、多世代交流や地域共生の視点や、子ども第三の居場所の取り組み等関連事項についても学ぶため、光こども未来課長、山下健康長寿課長にも同行してもらい、関係各所を訪問し意見交換を行った。

また、これに先立ち、以前から課題であった離島の児童生徒の挑戦機会確保に向けた移動及び宿泊支援制度の創設に関する要望活動も行った。

要望活動の概略

5月14日(木)午後2時に国土交通省大臣官房審議官・天野正治氏と面会、午後3時にはスポーツ庁地域ス

ポーツ課長・鈴木文孝氏、午後3時30分に



三反園政務官への要望

財務大臣政務官・三反園訓氏、午後4時20分に衆議院議員・牧野俊一氏を訪問し、離島の児童生徒の挑戦機会確保に向けた移動及び宿泊支援制度の創設に関する要望を行った。各所とも地域の課題は理解してもらい、今後鹿児島県とも協議したい旨の回答があり、推移を注視していく。

三反園政務官には、県道623号と論島循環線東区地区交差点改良について与論町議会の要望として併せて提出。その後、沖野議長、高田委員長、光課長の3名はよろんPOMセンターのお礼を兼ねてB&G海洋センター本部を訪問した。

江戸川区「江東園」

翌日、まず始めに江戸川区の江東園を訪問。本園は保育園、高齢者施設、障がい者支援施設を一体運用する複合施設であり、日常的な世代間交流を活動の核に据えている。中心となるのは毎朝の体操で、入居者・利用者が自由に参加し、これに加え、高齢者が好きな時間に保育園の活動を手伝うなど無理強いない形での交流が促されていた。この施設

が目指すところは、日々の生活の中で自然に人が集い、支え合う「大家族」のような関係性の創出である。

施設では、異なる世代や背景を持つ人々が日常的に顔を合わせる環境を活かし、障がい者が園児と一緒に食事をし、昼寝の時間に起床を知らせる放送を担当するなど、多様性を受け入れる文化を育む取り組みが意図的に行われていた。施設の設立経緯は、現理事長の祖父が1962年に養護老人ホームとして創設し、1976年に隣接地に保育園を開設。1987年に建物を建て替える際、当時社会問題化していた「核家族化」への強い問題意識から、現在の複合施設の形が構想された。その背景には高齢者が経験や知見を活かして

「役に立つ存在」となり、子どもたちが多様な人々との関わりの中で成長することでより良い社会を築いてほしいという願いがあった。



江東園での意見交換の様子

た。当時の江戸川区長の協力もあり、行政の縦割りという壁を越えて複合施設が実現した。複合施設の最大のメリットは費用面での効率化で、特に高額な設備を購入する際に複数の事業で費用を按分できるため、単独施設に比べて経営的な利点がある。

一方、各事業で収益構造が異なるため収支管理や赤字補填の調整を一元的に行う必要があり、物理的な環境設計も重要な要素の一つである。縦割り行政の弊害による個別の入りの設置要求といった課題に直面しつつも、壁や仕切りを極力排除し、誰もが自然に集える共有スペースの確保を目指している。人の息遣いを感じられる距離感を保つことが、真の交流を生むという理念が根底にあった。

意見交換の場では、与論町での高齢者世帯のごみ排出問題が提起され、島という閉鎖的な環境では廃棄物処理を内部で完結させる必要やコスト面、住民の当事者意識の醸成が難しいため、「自分ごと」として捉え、近隣で助けあう「古き良き関係」の再構築が議論され

た。商工会等を通じたボランティア組織の設立や運送業者への協力要請、中高生を巻き込んだ美化運動などが提案された。

一方、本町でも町立こども園の統合計画に関連し、江東園の実践を新しい公共施設に活かすための提言もあった。成功の鍵は世代を超えて誰もが一堂に会せる「共有スペース」の確保と、人の息遣いが感じられる距離感を保つことである。今後公共施設への展開も含めた広がりを目指すとともに、本町での取り組みでも重要な視点をもらった。

AiCube
次に訪問したのは、同じ江戸川区にあるアイゼリーグループのAiCube（エーキューブ）。本施設は、グ

ループビジョン「Great Happiness（グレイトハピネス）」関わる全ての人々が共に尊重し、「幸せ」になること』を基本とし、



A-Cube の代表と玄関で

多世代・多文化・多機能が自然に交わる動線を考え、乳幼児・学童・障がい者・高齢者・外国人・地域住民が日常的に接点を持てる仕組みが進んでいた。高齢者施設、デイサービス、保育園のスタッフルームと食堂は全て一つに統合され、スタッフ間の自然な連携が

生まれていた。

一方、子どもたちが日常的に高齢者フロアへ立ち寄れる動線を確保しており、「そこに行こう」という自発的な交流が生まれる環境が構築されていた。アイゼリーグループが実践する多世代交流を通じて、子ども側は、高齢者への思いやりやコミュニケーション力の向上、多様性への理解、異年齢交流による社会性の向上などが自然と育まれ、高齢者側は、笑顔が増えるなどの表情の変化、会話量の増加、外出意欲や活動意欲の向上などから交流を楽しむに生活習慣が身に付いてきているように感じた。特に、高齢者や障がい者が「自己の役割」や「居場所」を認識し、必要とされているという認識があることで、当該

施設が地域社会に必要とされていることが良く理解できた。人材不足対策に対しても、独自の循環型モデルを構築し「みんなのレストラン」と命名した子ども食堂を地域交流の結節点として運営。参加した住民がスタッフとして雇用されるケースもあると言う。

一方、介護福祉士が保育士資格を取得するなど複数資格取得を推奨し、法人内での多様なキャリア形成を可能にしており、人材の定着性と流動性を両立させている。運営面については、保育園、デイサービス等事業ごとに独立させ補助金も各省市管轄からの個別受給としているが、東京都独自の基準など厳しい要件には準拠するようにしていた。施設整備もリノベーションによ

るコスト最適化を図っている。元々法人が所有していた専門学校の校舎だったが、改修費に国や都の助成金を最大限活用している。



A-Cube 施設説明と意見交換

子ども夢パーク
最後に川崎市にある子ども夢パークを訪問。平成12年12月に制定された「川崎市子どもの権利に関する条例」を基に、その精神を「具現化する場」「自分の責任で自由に遊ぶ場」「ありのままの自分でいられる場」とし、

子ども達が遊びながら自由に使い方を考え、「つくりつづけていく」施設である。日常の取り組みとして「子どもの活動拠点」「プレerpark」「フリースペース」の3本柱で成り立っており、子どもの活動拠点としては、気軽に立ち寄りみんなで楽器や音楽を楽しむことのできる「ゆるロック」等子どもの自主的な活動の場として様々なイベントを実施。プレerparkでは自分の責任で自由に遊ぶ場として、常時開設。特に着目したのは「フリースペース」で、月曜日・金曜日まで開設されている登録制の不登校児童・生徒の居場所である。ここでは、連続・単発の講座などから子ども自身が選択し、一日の過ごし方を決める。

自分の得意なギターを他の子に教えている子、スマートフォン片手に共通の話題に花を咲かせている子、支援の先生との会話を夢中な子など、選択した講座以外にも多様な過ごし方が一つの部屋で行われており、大変活気のある空間だった。昼食も皆で作りながら食



子ども夢パーク入り口（職員と）

と文化を創造する」とあり、子どもたち同士でのトラブルも珍しくないが、スタッフは解決方法や答えを提案することはせず、あくまで子どもたち同士が考え、模索し作り上げることにしている。大人たちはその解決に至る手助けをしている。

4月に開所したよろんPOMセンターでの運営にも大きな参考となる現場だった。第3の居場所の本質の一つを垣間見た。今後も町立こども園の一元化に向けて様々な課題が出てくると思われるが、更に進む少子高齢化社会に向けて、「介護、保育、障がい福祉、子育て支援、地域交流」を一体的に行う「地域共生社会」の拠点づくりを見据え、当委員会も引き続き調査研究を進めていく。

委員会調査報告

本委員会に付託された調査事件について報告する。

1 ギンネム対策について

2 調査の経過

○令和7年11月18日

ギンネムの被害や現状把握について各委員の意見を集約、調査案件として検討

○令和7年12月9日

令和7年度議会報告会で、町民から出た意見等を集約し、県職員・県議との意見交換会への要望議題として提出することに決定

○令和8年1月14日

意見交換会への要望書の確認

○令和8年1月15日

意見交換会への要望書提出の最終打合わせ
○令和8年1月20日
意見交換会への要望

書を提出

○令和8年1月29日

意見交換会後の意見集約、今後の活動等について

○令和8年2月12日

ギンネム繁殖状況について意見交換

○令和8年3月5日

ギンネム繁殖状況について意見交換
○令和8年6月15日
ギンネム対策の進捗について意見集約



島中にはびこるギンネム

3 調査の結果

本町全域にギンネムが異常繁殖し、観光や住民生活、農業施設（農道・ため池）に深刻な影響が出ている実態を把握した。現場ではボランティア活動や多面

的機能支払交付金事業を活用し対応しているもののギンネムの繁殖力は非常に強く、人力による駆除は限界に達している。この課題解決に向け、令和8年1月20日県議会庁舎で県担当職員・県議員（禧久議員、長田議員、寿議員、松山議員、元山議員）との意見交換会を開催した。その際、当委員会より『ギンネムの駆除対策への支援について』の要望書を県環境林務部自然保護課及び農政部農村振興課へ提出し、予算枠の拡大や抜本的な対策を強く求めた。要望に対し、県農政部農村振興課からは「多面的機能支払交付金」でのギンネム対策として「張りコンクリート」は原則認められていないが、要望を受け、現在国と調整中であると

の回答があった。その後、迅速な働きかけの結果、令和8年4月28日付けで「多面的機能支払の実施に関する基本方針（鹿児島県要綱基本方針）」が改正された。これにより、多面的機能支払交付金において県独自の内容が追加され、奄美地域のギンネム対策として、必要に応じた「張りコンクリート」等の抜本的対策が公式に認められるに至った。また、町内各公共施設でのギンネムの迅速な伐採も見られ、ギンネム対策に関する前進を感じている。以上の通り、本調査の進捗で、県、本町、および地域住民の緊密な協働・連携のもと、制度改正という「大きな一定の成果」が得られたことを確認し、本付議事件に関する調査を終了する。

第67回奄美群島市町村議会議員大会

奄美群島戦略ビジョン2033の実現を期する。

第67回 奄美群島市町村議会議員大会・研修会



第67回奄美群島市町村議会議員大会

去る5月19日、瀬戸内町清水公園総合体育館において、第67回奄美群島市町村議会議員大会が県選出国会議員や県議会議員、各市町村長等、来賓出席のもと盛大に開催された。12名の自治功労者が表彰され、議事では経過報告の後、奄美群

島12市町村において策定された奄美群島成長戦略ビジョン2033のもと、「つなぐ宝」「稼ぐ力」「支える基盤」の3つの柱を基軸とし、各種施策に継続的・広域的に取り組むとともに、地理的・歴史的・文化的につなぐりの深い沖縄との連携

強化を図り、奄美群島の自立的で持続可能な発展の実現と、地方創生による地域の活性化を期するとともに、市町村議会として地域住民・行政と一体となつて推進し、全力を尽くすことを宣言した。

その後、提出議題について、それぞれ代表者から提案理由の説明がなされた。

提出議題は、①主要地方道湯湾新村線のトンネル建設早期実現について（大和村・宇検村・瀬戸内町）、②離島地域における物価高及び燃油価格差の是正について（奄美市）、③鹿児島県喜界町知名航路の減便問題に関する要望（龍郷町・喜界町）、④鹿児島本土の新港等における、物流・品質保持の機能性強化を図る農産物等貯蔵施設の整備について（徳之島町・天城町・

伊仙町）、⑤離島航空路の安定運航および空港機能強化について（和泊町・知名町・与論町）、⑥交流人口拡大及び生活路線の安定化について（議長会）、⑦奄美地域における輸血用血液備蓄体制の整備及び持続可能な地域医療の確立について（議長会）の7項目で採択された。

最後に、①奄美群島成長戦略ビジョン2033の実現、②ビジョン2033を着実に推進するための奄美群島振興交付金の充実、③地理的・歴史的・文化的につなぐりの深い沖縄との交流・連携の強化、④世界自然遺産地域を含む奄美群島国立公園の保護管理及び持続可能な利用の推進、⑤情報通信ネットワークの整備・充実、⑥交流人口、関係人口拡大

に向けた施策の推進と更なる支援策の拡充、⑦道路・港湾・空港など交通基盤の整備・充実、⑧上下水道・公営住宅等住環境の整備・充実、⑨さとうきび・園芸作物など農業基盤の整備・充実、⑩重要病害虫、特殊病害虫、不快害虫等対策の充実・強化、⑪本場奄美大島紬産業の活性化、⑫災害対策推進と名瀬測候所の地方気象台格上げ、⑬保健医療・社会福祉の充実・強化、⑭地域を支える人材の確保・育成、教育の推進、⑮独立行政法人奄美群島振興開発基金の充実・強化の15項目を決議して大会を終えた。

大会後の議員研修会では、「嵐吹き荒れる世界と日本・世界の中の奄美大島」と題して元海上幕僚長・武居智久氏を講師に迎え講演が行われた。

一般質問

5人の議員が登壇、町政を問う

硬度低減化施設建設の進捗状況は 町長 国や県へ実施設計への概算要望を申請している。



遠山勝也議員

硬度低減化施設建設の実現に向けて
遠山議員 硬度低減化施設建設の実現に向け、今年度2月にあるメーカーの硬度低減化試験装置が古里浄水場の前の仮設コンテナで稼働し、水の硬度や1日の浄水量等、各種データが出たと思うが、その解析結果並びに国や県への要望等の進捗状況について伺いたい。
町長 現在進めている浄水場更新計画の一環で、今年の2月から約



硬度低減化試験装置

2か月間、逆浸透膜硬度低減化装置の実証試験を実施した。水質の変化を確認した結果、硬度370mg/Lから、約90mg/Lまで低減できることが実証され、原水の取水量に対する回収率も、76.9%の確保が確認できた。また、国及び県への要望は、令和9年度の浄水場更新に係る実施設計への概算要望を申請しており、浄水場更新実現に向け、各種取組を進めていく。

人口減少の進む中 持続可能な上水道施設建設計画
遠山議員 令和8年の国交省上下水道予算案の中に、人口減少下に必要な上下水道を維持していくため、システムの分散化によるコンパクトなインフラ整備の導入に必要な計画策定や施設整備（水源整備、小型浄水処理装置、運搬送水の給水車導入等）を補助率1/3にて補助対象に追加とあり、本町も検討すべきと思うが、見解を伺いたい。
町長 現在本町の水道事業は、一か所での浄水場処理水を町内全域に送る集約型システム

だが、これを分散化した場合、
1. 地下水以外の水源
2. 各家庭に小型浄水処理装置の設置
3. 浄水場処理水の給水車運搬
等の検討が必要である。まず、地下水以外を使用する場合、雨水ダムの設置が考えられるが、平成11年度の整備計画書では、集水面積が0.79平方キロメートル必要であり、用地の確保が極めて困難となっている。
次に、各家庭に小型浄水処理装置を設置する場合、管路の更新費用、維持管理費用は削減できるが、その装置の故障修理の対応に費用と労力がかかる。ま

た、この装置の水道事業への適用は、まだ国土交通省で実証試験の段階のため、更新計画には採用できない。

最後に、給水車での水道水運搬だが、本町は町内全域に水道管が布設され、車両による運搬の必要性は無いと考える。

以上のことから、現時点では分散型システムの必要性は低いと判断している。



【国土交通省の集約型システム・分散型システムの比較検討手法から一部掲載】

与論港岸壁のバリアフリー等安全対策は

町長 計画的に舗装補修を行い段差解消に努めている。



高田豊繁議員

与論供利港岸壁のバリアフリー等安全対策

高田議員 近年、物流コンテナの増大に伴う野積み占用の拡大等もあり、乗降客や送迎車輦等と荷役作業双方の安全・円滑な利用が図られるよう、岸壁面でのバリアフリー対策や安全対策が急務と思われるが、県と連携し早急に対策を講じる考えはないか伺いたい。

町長 与論港供利地区の岸壁については、県においてエプロン舗装の補修を計画的に行っている。また、岸壁や荷役作業による土地利用及び安全対策については、港湾関係者で構成

される「与論港港湾施設適正会議」において意見交換を行っており、安全で円滑な利用が図られるよう協議していく。



供利港岸壁の現状

5月20日発生の震度5強地震の被害と復旧
高田議員 民間施設および公共施設における被害状況と復旧計画について伺いたい。

町長 民間施設では、一部スローパーで商品が床に落下し破損した。また、住家で水道管の破損や石垣の一部崩壊の報告があった。学校施設では、天井

コンクリートの剥落等が確認されたため、鉄筋の防錆処理を行うなどの応急対応をしたが、専門家の診断をもとに安全対策を進めていく。その他の公共施設では、東区青少年センター（自治公民館）の天井裏コンクリートの剥落があったが、すでに修繕を終えた。また、砂美地来館で天井板の一部が脱落したが、脱落していない箇所も含め再点検を行い、天井板の再設置を予定している。

各種申請書等書類の押印省略化推進

高田議員 役場内事務において、未だに町民等の署名押印が求められる手続きがあると聞か、該当する手続きや改善が進まない理由及び今後の改善計画について伺いたい。

町長 各種申請様式から押印の「しるし」を削除するなどの改善も見られるが、既存の様式をそのまま使用し押印を求めている場合も少なくない。今後は、国の押印見直しマニュアル等を参考に、デジタル社会における行政手続きのオンライン化に備え、押印見直し指針等を策定し押印見直しを推進していく。

公務における情報公開の推進

高田議員 与論空港の滑走路端延長工事等のスケジュールや、旧清掃センター問題等については早期の周知と情報公開が必要と考えるが今後の計画を伺いたい。

町長 与論空港の滑走路端安全区域の整備については、事業主体である鹿児島県が関係者

に対する事業用地説明会を開催したところである。

用地を取得次第、工事に着手する予定であり、引き続き県と情報共有を図りながら、早期整備に努めていく。

また、旧清掃センターでの不適切な解体作業事案については、町民の安全・安心に関わる事項であり、早期の周知と適切な情報公開が必要であると認識している。6月5日付けのホームページに、解体作業の経緯や確認された事実、現在実施している調査の状況及び今後の対応方針等について報告している。

今後は、ダイオキシン類等飛散防止対策応急措置を講じ、法令遵守及び安全管理の徹底に努めながら適切な解体作業の実施に向けて取り組んでいきたい。

自治公民館の防災機能強化と環境整備を図れ

町長 老朽化に伴う再整備の検討と支援の充実・強化を図る。

防災体制の強化



吉田 勉議員

吉田議員 五月20日

に震度5強の地震があり、今後同程度以上の地震の発生が懸念される。地震と津波を想定した避難訓練の徹底及び避難場所や避難道路等の再確認・再点検が必要不可欠と感ずるが見解を伺う。

町長 5月20日午前

11時46分頃、本町では観測史上初となる震度5強の地震が発生した。18年前の平成20年にも震度5弱の地震が発生したが、それ以来の大きな地震となつた。奄美群島周辺では震度5以上の地震が度々発生しており、今後同程度以上の地震発生が懸念される。

幸いにも今回の地震では、大きな被害は生じていないが、今回の経験を好機と捉え、地震や津波を想定した災害対策の強化を図っていく。

特に、今回の地震では、災害時の指定避難所となっている砂美地来館において、天井パネルが剥離落下する被害が発生したことを受け、今後より大きな地震を想定し、砂美地来館が避難所として使用できない場合の対応についても検討する。



地震



津波

や

いつ発生するか分からない！
【命を守る行動】ができるよう
※日頃から災害への備えを!!

また、地震と津波は同時に発生することが

多いため、津波から避難する際、島の高台へ通じる幹線道路が通行不能となった場合も想定し、住民の避難誘導方法等についても検討するとともに、津波を想定した避難訓練についても計画していく。

自治公民館の機能強化

吉田議員 本町は、昭和59年に自治公民館制度が発足し、地域活動の拠点として大きな役割を担い、様々な成果を収めてきている。

発足後40年を経過し、地域では少子高齢化が進み、様々な課題も増えてきている。

また、中央公民館の休館に伴い多目的な利用も増えており、地域防災の拠点としても重要である。

このことから、施設整備、防災機能の強化、併せて役員報酬の検討

等、環境整備が必要不可欠と感ずるが見解を伺う。

町長 本町の自治公民館は、昭和47年に麦屋へき地保健福祉館として現在の西区自治公民館が整備されたのを皮切りに、各集落に順次自治公民館が整備され、茶花自治公民館が最後に整備された。

自治公民館は、集落運営及び活動の拠点や災害時の避難所など、様々な用途に利用される施設である。一方で整備後年月の経過に伴い各自治公民館施設の老朽化が進行しているため、今後再整備も含めた自治公民館のあり方について検討を進めていく。

現在、各自治公民館の運営に対しては、運営費120万円、指定管理委託料18万円を支出している他、自治公民館活動支援事業補

助金として、補助対象経費の9割を補助し、上限を20万円とする補助金を予算措置して支援している。今後とも、各自治公民館の運営や活動への支援の充実・強化を図っていく。

各自治公民館落成年度					
公民館名	落成年度	備考	公民館名	落成年度	備考
西区公民館	昭和47年	麦屋へき地 保健福祉館	朝戸公民館	昭和55年	朝戸児童館
立長公民館	昭和53年	立長へき地 保健福祉館	古里公民館	昭和55年	古里青少年センター
東区公民館	昭和53年	東区青少年センター	叶公民館	昭和56年	叶生活館
那間公民館	昭和54年	那間へき地 保健福祉館	城公民館	昭和57年	城青少年センター
中央公民館	昭和55年	茶花地区公民館(新設側)	茶花公民館	昭和58年	茶花生活館

目的を持った企業版ふるさと納税の強化を 町長 積極的な企業版ふるさと納税の活用を図る。



吉田 剛議員

少子化対策及び空き家解消
吉田議員 本町の人口もついに令和7年3月頃から5000人を下回った。令和6年に行われた「こども未来推進ニース調査」において少子化の要因は「住居不足」が第1位に挙げられている。空き家解消を住居確保に繋げることは、Uターン促進や家族世帯増加に直結する課題だと考えるが、住まいるプロジェクトの推進や入居促進を担う体制強化や組織化について、考えを伺いたい。

町長 与論町の住宅不足解消は喫緊の課題であり、それを少しでも解消するため「住まいるプロジェクト」は令和4年度に発足した。令和8年3月末までの取扱い物件数は7件であり、令和8年度は4件を予定している。主な活動内容としては、大家との交渉・空き家予備軍への普及活動・SNSを活用した集客



住まいるプロジェクト作業風景

及びサポーター獲得・空き家・空き地の見守りサービス・DIY講習会及び空き家相談会等の企画・運営である。また、今年度より総務企画課から建設課に事務局を移し専任の担当者として、地域おこし協力隊を1名配置し、より一層体制強化及び普及活動を行う。

企業版ふるさと納税の戦略的活用
吉田議員 自然発生的な寄付を待つのではなく、成功報酬型による専門業者の利用など、町のリスクを抑えた攻めの施策を導入すべきと考える。「いくらあれば何が出来るか」など明確な試算に基づき企業版ふるさと納税を原資とした事業展開の展望を伺いたい。

納税については、国が認定した地域再生計画（第2期与論町まち・ひと・しごと創生推進計画）に位置付けられた寄付募集事業に対し企業が寄付を行うものである。

これまで企業側からは、特定の事業に対しての寄付というよりも、本町のまちづくり全般を応援したいというところの寄付が多く見られるが、指摘のとおり、自然発生的な寄付を待つばかりではなく、積極的な企業版ふるさと納税の活用を図っていききたい。

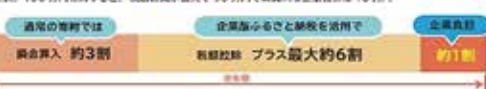
そこで今年度から、企業版ふるさと納税の募集事務を専門業者に委託することで、本町が企業版ふるさと納税を活用し実施したい事業の広報を強化し、特定事業に対する企業版ふるさと納税の活用促進を図っていく。



企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは

地方公共団体の地方創生の取り組みに対して企業が寄付を行った場合に法人関係税から税額控除される仕組みです

1 税額軽減最大9割！実質負担は1割で寄付できます！
(例) 100万円寄付すると、税額軽減が最大で90万円（事業的な企業負担は10万円）



2 企業版ふるさと納税には、他にもこんなメリットがあります！

- 社会貢献により企業のイメージアップ
- SDGsの推進
- 与論町との新たな（新しい）つながりの構築

企業版ふるさと納税の内容

持続可能な自立型地域経済政策の展開は

町長 事業の見直しと宣伝・特産品開発を促進する。



池田理恵議員

食を通じた教育と
まちづくりの循環

池田議員 学校給食は、食育、健康づくり、地域食文化の継承など、子どもの成長と学びを支える重要な教育政策であると考えています。

令和8年4月より開始された国の学校給食費負担軽減制度において、既に給食費無償化を実施している与論町における財政面への影響と現状、物価高騰や離島特有の輸送コストを踏まえた給食の質の維持・向上及び今後の学校給食のあり方について考えを伺いたい。

教育長 国・県による「公立学校給食費負担軽減補助金」のみでは

本町の給食費は賄えず、町一般財源による補填が必要であるが、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金などを活用することで、学校給食費の完全無償化を実現することができた。学校給食が児童生徒の心身の健全な発達に寄与するため、給食の充実及び学校における食育の推進に努めていく。

池田議員 「食」は全世代に共通する入口であり、学校、家庭、地域などをつなぎ、学びや意識、行動の変化を生み出す大きな可能性を持つ分野であると考えています。そこで、食を通じ、教育、健康、農業、環境、観光、地域経済をつなぐ「食を通じた教育とまちづくりの循環」の可能性について考えを伺いたい。

町長 「食」を通じた教育である食育は、重要な事柄であるので、家庭や学校等を通じて推進を図っていききたい。また、「食」を通じては、島の食文化の保存・利活用を始め、地産地消の推進や生ごみ等の有機性資源の循環、家庭菜園の推進や無人販売所の活用促進などを通じ、地域経済を循環させる仕組みづくりを検討していききたい。

持続可能な自立型離島モデル
池田議員 グリーン・デスティネーション・アワードシルバードアワード受賞は、本町の環境保全と観光振興の両立が国際的に評価された成果であり、大変意義深いものと考えている。一方で、持続可能

な自立型経済の実現に向けては、観光地マネジメント体制の整備、脱炭素化の推進、地域事業者への取り組みの浸透と見える化など、次の段階に向けた戦略的対応が重要である。そこで、今後の戦略体制の構築と、持続可能な観光・環境・地域経済政策の展開について考えを伺いたい。



シルバーアワード受賞

町長 シルバードアワード受賞を期に、本町の強みとされた「自然」及び「文化」の保存と育成に努め、弱みとされた「環境」・「組織」・「ビジネス」の各分野の改善を図りたい。

また、事業の見直し（集約と分割）等を進め、効果的な宣伝活動や特産品開発を促進していく。

池田議員 本年度より、縦割り行政を超えた横断的な司令塔として「企画戦略室」が設置されたが、現在の稼働状況と今後の方向性について伺いたい。

町長 現在、総務企画課の職員3名を配置し、既存施策の見直しや各課との連携体制の検討を行っている。

来年度に第3期となる第6次総合振興計画のさらなる充実と着実な推進体制を構築する。また、本町の地域課題の現状把握に努め、各課と連携し課題解決に向けての取り組みを発信しつつ、積極的な活動を展開していきたい。



菊 凛太郎氏

わたしもひとこと

プロフィール

○氏名 菊 凛太郎
○住所 与論町茶花
○役職 商工会青年部長

のない日常かもしれない。

しかし、その「当たり前」に、多くの人が魅力を感じて与論島に訪れています。私は仕事を通して、島外からいらつしやるお客様と接する機会が多いのですが、そうした方々から「与論の作られた感のないありのままの風景が素敵だった」「歩いていたら、島の子供たちが元気に挨拶してきてくれた」「与論の方言を聞いたときは、まるで外国語を聞いているかのように印象深かった」と言われることがあります。そのような声を聞いてよく思うのは、「私たちが当

たり前だと思っているものほど、お客様の心に残っている」ということです。私たちにとって、日常の風景や普段の暮らしが、島外からいらした方にとつては「与論らしさ」を感じると特別な瞬間であり、与論の大切な宝物なのです。



与論島の風景

一方で、時代とともに暮らしの形は変わり、私たちを取り巻く環境も刻一刻と変化しています。これから先、人口減少や高齢化が進む中で、私たちは与論島の自然や文化を守っていかなければなりま

せん。様々な開発が進み、暮らしが便利になることはもちろん大切ですが、その一方で、与論らしさが少しずつ失われてしまうのは、とてももったいないことだと感じます。

自然や文化を守るといふと、「特別な人がやること」と思われるかもしれませんが、し、本当はそんなに難しいことではないと思います。地域の行事に参加すること、昔の話を子どもたちに伝えること、目の前に落ちて

いるごみを拾うこと。そうした一つひとつの積み重ねが、与論の魅力を未来へつないでいくことに繋がるのではないのでしょうか。

学校で地域のことを学ぶ機会、島の魅力を私たち島民自身を知るきっかけづくりなど、行政と地域が一緒になって取り組めることは多々ありますし、すでに実践されている取り組みもたくさんあります。

与論には、他の地域にはない「与論らしい」魅力があります。そして、その魅力の多くは、先人たちが長い年月をかけて育み、受け継いできたものです。私たちは今、その宝物を預かっている世代です。次の世代が「与論に生まれてよかった」「この島を残していきたい」と思えるように、暮らしやすさと与論らしさの両方を大切にしながら、みんなで未来の島をつくっていかれたらと思います。

《編集後記》

令和八年度大島地区中学校総合体育大会が六月九日に開幕した。与論中の結果は、団体競技で卓球が久々に男女アベック優勝を果たした。しかも、男女とも予選から決勝まで、総ての試合を3-0で突破するという驚異的な完全優勝だった。その他、バレーボール女子が第三位となった。個人競技では、陸上1年男子100mで日高蘭丸1位、1500m2年で中野峻太2位、同3年で池田明夢2位、水泳では、3年池田悠恭が男子自由形100mと200mで1位、卓球女子で山下陽菜多2位だった。(団体3位以上・個人2位以上、敬称略)生徒たちの県大会での活躍に期待したい。(大田)